

外国人通訳者たちが選んだ 「雇われない」働き方

— CooperAtiva Tsuyaku 労働者協同組合

外国籍のメンバーを中心に設立された「CooperAtiva Tsuyaku 労働者協同組合」。ボランティアや不安定な非正規雇用者として日本で暮らす外国人を支えてきたコミュニティ通訳者たちが、「雇われる」のでも「ボランティア」でもない、新たな働き方を選びました。代表の大島ヴィルジニア・ユミさんと、理事の登田 アンナさんに設立に込めた思いと、今後の展望を伺いました。



理事の登田 アンナさん(左)と、代表の大島ヴィルジニア・ユミさん(右)

ブラジル人4人が中心になって

設立メンバーは、ブラジル出身者4人と日本人2人の計6人。ポルトガル語などの通訳・翻訳に長年携わってきた女性たちや、NPO法人の研究員が集まりました。

事業の柱は、コミュニティ通訳・翻訳者の養成です。既存の養成講座は日本語で行われるため、外国人にとっては細かなニュアンスまで理解することが困難でした。AI翻訳が進んでも、文化的背景や文脈、微妙なニュアンスを踏まえた通訳は人にしかできません。まずはポルトガル語などの母語で通訳の基礎や専門用語を学べる講座を開き、当事者に寄り添える人材を育成します。そのほか、多言語による情報発信や相談対応などにも取り組みます。

ボランティア活動の限界から、 専門スキルを生かす労働者協同組合へ

労働者協同組合を立ち上げた背景には、これまでの活動に限界を感じていたことがありました。私たちは、有志の通訳者同士でネットワークを作り、日本の教育制度の勉強会や自治体が発行するガイドブックやハンドブックなどの翻訳などを自主的に行ってきました。しかし、ボランティアや、会費頼みの運営では、活動を安定して続けることが難しかったのです。

また、私たち通訳者の多くも非正規雇用で社会保障の面などでも不安定であり、生涯を通して生活に強い不安を抱えています。そして何より、日本社会で「雇われる」立場として主体性を奪われてきた状況を、なんとか変えていきたいという強い思いがありました。

そんな時、私たちの活動を長年支援してくれていたNPO法人「地域と協同の研究センター」研究員の神田すみれさん(今回の設立メンバーの1人)から「労働者協同組合法」を聞きました。働く人が出資し、経営と労働に責任を持ち、課題を仕事で解決していく。



自ら起業して専門スキルを活かし、人間らしく生きるための安定的な就業基盤を作るという労働者協同組合の理念は、まさに私たちが求めていた形でした。

県のアドバイザー派遣事業の活用

立ち上げにあたっては、本気で取り組む覚悟のある仲間に声をかけ、出資金は1口2万円としました。最も苦労したのは、日本の複雑な法律や税金、会計の仕組みの理解です。日本語の専門用語が並ぶ書類は高い壁でしたが、日本人組合員が要約し、私たちがポルトガル語に翻訳して共有しながら作成しました。この作業自体が、日本社会へ事業をどう発信するかを学ぶ良い訓練になりました。

労働者協同組合の立ち上げを考えている方に伝えたいことは、専門家の支援制度を利用することです。私たちは愛知県のアドバイザー派遣事業を利用し、専門家（※藤井恵里さん：愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会代表）の伴走支援を受けました。この制度は絶対活用したほうがいいです。



「お客様」から「当事者」へ

最初は労働者協同組合について、「とりあえず一緒にやって、儲けた分をみんなで分けるんでしょ」ぐらいのイメージでいたメンバーもいましたが、設立に向けて学ぶうちに、単なる利益分配の組織ではないことに全員が気づきました。「代表についていけばいい」「失敗しても自分には責任がない」といったお客様気分はなくなり、全員に当事者意識が芽生えたように思います。

また、出資額に関わらず「一人一票」の平等な権利を持つため、事業の経営と労働の両方について主体性と責任感が生まれました。意見の対立があっても、それを建設的な議論として捉えることができ、誰かに指示されるのではなく自立して働く喜びを感じています。

法人格がある「事業体」となったことで、ただ「仕



事をください」と行政にお願いするのではなく、「私たちの地域にはこんな課題があり、こんな支援が必要だからやらせてほしい」と、対等に提案できるようになったことは、労働者協同組合になったことで実現できる大きな成果です。

経験を日本で暮らす外国人につなげる

短期的な目標は、通訳講座を軌道に乗せ、医療や学校などの専門分野への通訳事業を拡大していくこと。そして、それぞれの組合員が掛け持ちしている仕事を辞めて、ここでの活動を「本業」にし、十分な収入を得て自立して生活できるようになることです。

将来的には、「通訳センター」のような拠点を立ち上げたり、私たちの労協が成功モデルになることで、日本の外国人コミュニティに私たちの経験を還元できれば。言葉の壁さえ乗り越えれば、外国人が持つスキルは日本社会にも役立つはずです。外国人グループが自分たちで労協やNPOを立ち上げたいと考えたときに、私たちも伴走支援をしていきたいと考えています。

法人データ

- CooperAtiva Tsuyaku 労働者協同組合
- 設立年月：2026年6月
(5月1日・メーデーに設立総会を開催)
- 所在地：愛知県小牧市
- 代表理事：大島ヴィルジニア・ユミ
- 組合員数：6人
- 主な事業内容
 - コミュニティ通訳・翻訳事業
 - コミュニティ通訳・翻訳者養成事業
 - 多言語での暮らしに関する情報発信・相談事業
 - 居場所、介護予防などの高齢者支援事業
 - 外国人コミュニティ対象のスキルアップ事業